

## V. 特記事項

### 1. 仙台市に本拠地を置くプロスポーツ4団体とのアカデミックパートナーシップ

本学ではプロスポーツが保有する有形無形の資産を活用した人材育成を目的に、仙台市に本拠地を置く株式会社仙台 89ERS、株式会社楽天野球団、株式会社ベガルタ仙台、株式会社マイナビフットボールクラブの4つのプロスポーツ団体とアカデミックパートナーシップ協定を締結し、学生がプロスポーツの現場で学ぶ機会を確保している。

具体的には、学生がプロスポーツの現場に赴き、コーチングやトレーニング方法、各試合会場で開催される試合やイベントの運営等について実践的に学んでいる。また、チームスタッフとしてのインターンシップを行うなど、学内での学びを現場で実践する取組みを行っている。さらに、各チームの運営会社のスタッフが本学を訪れ、現場における体験談や技術指導、栄養指導など、学生の専門性に応じた出前講義も行い、協定を生かしたスポーツを「支える」機能に係る多彩なプログラムを学生に提供している。このような取組みにより、本学卒業生のチーム運営会社への就職にもつながっている。

今後もこの取組みを継続し、学生がプロスポーツ団体を舞台とした「生きた学び」を経験することで卒業後の実践力の向上を図り、建学の精神の具現化を目指していく。

### 2. 附属高校との高大接続教育の深化及び ICT 教育の充実による人材の育成

本学では、法人が設置する附属高校とのスポーツ科学をベースとした高大接続教育を深化させることで、7年間の一貫教育という視点に基づく人材育成を図っている。具体的には、附属高校からの進学者・保護者で組織する「明仙育進会」を組織し、大学進学後の修学状況等に関する情報共有と生活や進路の相談体制を整備している。附属高校が所在する仙台市川平地区に新設した大学キャンパスでは、スポーツ科学実践施設（川平 KMCH）を新アリーナに付設整備し、進学希望の高校生等に対し、AIカメラによる動作解析、インボディ等による身体・生理特性分析その他、高校専門学科「体育」の学習指導要領を踏まえた実技授業等において、各種スポーツに関する基礎的な科学的知識の習得等に係る教育を、本学アスレティックトレーナー等の常駐、大学教員の出前授業、教員志望学生の指導実践等を通じ、大学教育研究の一環として実施している。令和 6(2024)年度からは、高校の運動部活動についても教員志望の本学卒の大学職員等による技術指導ができる体制を整備し、高大接続教育を通して、部活動の地域移行など、時代の要請を踏まえた専攻領域に係る人材育成を深化させている。

併せて、社会全体で「デジタル革命(DX)」が加速している中であって、ソフトバンク株式会社と連携し、福島県郡山市など遠隔での中学校の部活動支援事業を実施するとともに、令和 4(2022)年度には文部科学省から「数理・データサイエンス・AI 教育プログラム認定制度（リテラシーレベル）」の選定を受け、さらに、令和 5(2023)年度にはスポーツ情報マスメディア学科で高校の教科「情報」教員免許の課程認定を受け、令和 6(2024)年度同学科への入学生においては、その約 65%が、教科「情報」の教員免許取得を希望している状況にある。以上のように、高大接続教育の深化及び ICT 教育の一層の充実によって、スポーツ科学の分野において DX その他、時代の要請に対応できる人材育成に努めている。